

福島県立図書館
東日本大震災福島県復興ライブラリー

ブックガイド

No. 8

2014.3.20

■原子力問題・過去の原発事故

『ドイツ脱原発倫理委員会報告 社会協同によるエネルギーシフトの道すじ』

安全なエネルギー供給に関する倫理委員会／著 大月書店 2013.7 539.09/トイ137

ドイツのメルケル首相は、2011年6月6日に「2022年までに原発廃止」の閣議決定を行いました。その判断材料の一つとしたのが、首相自ら組織した委員会からの報告で、本書はその全訳です。

科学技術界のみならず、社会学、政治学、経済学の専門家、宗教界や実業界のメンバーらがまとめたこの報告書。日独の背景の違いはありますが、エネルギーとの向き合い方を考えたい私たちが、いま学べるものも多く含まれているように思われます。

■各組織の震災対応

『はるかなる甲子園 2011年、特別な夏』

栗山英樹／著 日刊スポーツ 2011.11 LS783.7/K9/1

「相双連合」、このチーム名を記録した本です。

2011夏の甲子園福島大会。原発事故で警戒区域、避難準備区域となり移転を余儀なくされ、高野連の特例で大会参加が認められた双葉翔陽高校、富岡高校、相馬農業高校の連合チームの名前です。第1章でこの相双連合、双葉高、小高工高、浪江高のことを取り上げています。

震災直後、各高校の体育館は避難してきた人々で溢れ、余震と放射能に怯えた。授業がいつから開始されるかもわからず、春期大会は中止。放射能の影響を心配し、生徒たちの屋外活動が制限されたことは記憶に新しい。震災時の高校生の様子をも伝える資料です。

■復興・防災

『3・11から考える「この国のかたち」 東北学を再建する』

赤坂 憲雄／著 新潮社 2012.9 369.31/A/129/

震災は、今まで表向きには見ようとしなかった地方(東北)の現実を、くっきりと浮き彫りにさせました。民俗学者で東北学の提唱者でもある著者は、震災後1年以上に渡り被災地をフィールドワークをして思索してきたものを新聞や雑誌に連載してきました。震災の後の被災地を見て再び東北を捉え直すという、東北学を最構築するという試みは、答えの見えない「この国のかたち」の未来を考えることへ、きつとつながっていくはずです。

『震災とアート あのと、芸術に何ができたのか』

倉林 靖／著 ブックエンド 2013.9 704/クヤ 139

震災直後は、衣食住に直接関わらないもの、例えば芸術や文化などが意味を持たないように感じたこともあるかもしれません。しかし、復興に向けたアート系のプロジェクトや震災後のアーティストの作品や展覧会を取材した著者は、アートを個々のアーティストの表現にとどまらず、社会と結びつけることが重要で、目指すべき社会を構築するために、アートには果たすべき役割があると述べています。3. 11後の文化のあり方を考える契機を与えてくれる一冊です。

■雑誌

『環境と公害』第42巻第4号, SPRING 2013

岩波書店 2013.4 Z519/K22

公害・環境問題専門誌「環境と公害」。震災直後より「シリーズ・東日本大震災と原発事故」として特集を組み、2014年2月の時点でシリーズ11回を迎えています。第42巻第4号シリーズ8では「原発避難の現在」と題して、県内外の各研究者が行った、警戒区域からの避難者の現在の避難状況や意識調査結果の分析等を紹介しています。福島県民を置き去りにしたかのような研究結果を掲載する雑誌も多い中で、福島県の問題に真摯に向き合った内容の論文を、多く発信している雑誌と言えます。

■こども向け

『放射線ってなあに？』

独立行政法人科学技術振興機構サイエンスウィンドウ編集部／〔編〕 科学技術振興機構 2013.3
539/ホ/

編集は、子ども向け科学雑誌『Science Window』を発行する科学技術振興機構が携わっており、放射線や放射能について、小学校高学年の子どもたちからでも分かるように解説されています。また、子ども達が疑問に思ったことを自分の手で調べられるよう、実験方法やHPが紹介されており、さらに県立福島高校の生徒達が取り組む、放射線についての独自の研究も紹介されています。

■その他

『ワタノハスマイル 笑顔になったガレキたち』

犬飼とも／著 青幻社 2013.10 719.087/ト 13X

「震災ガレキ」は、震災以降、解決すべき課題の一つとして、国民の頭を悩ませています。ガレキは、「もともとは、思い出のつまった誰かの大切な家の持ち物」です。本書はそんなコンセプトのもと、造形作家の著者と石巻市渡波の子ども達がガレキで作ったオブジェの写真集です。その共通点は、どのオブジェにも笑顔が描かれていること。見ていると、心には自然と「復興」の一言が浮かんできます。思わず吹き出してしまう、自由すぎるオブジェの解説にも注目してみてください。